

1回

(1)

英語史上の時代区分

英語の外面史

外 観

先住民

ブリテン島に住み着いた
主な民族

ケルト人

600 – 100 BC

ローマ帝国の兵士

55-54BC

アングル人・サクソン人・ジュート人

5c - 6 c

ヴァイキング

8c –

ノルマン人(フランスに定住したヴァイキングの子孫)

1066

Normans (ノルマン人)

デンマーク、スカンジナビア
半島を原住地としたゲルマン人
の一派

ブリテン島に英語が登場するまで

民族渡来時期

2.500 BC

ビーカー人

言語

?

600 – 100 BC

ケルト人

ケルト語

55-54 BC

ローマ帝国の兵士

ラテン語

5 – 6 C

アングル人・サクソン人・
ジュート人

英語

言語は絶えず変化しており、その流れは止められません。

したがって、変化の流れを区切ることはできませんが、変化を見る者としては、流れに急な変化があったところで区切りながら全体を見ると、全体もみやすくなります。

そこで、慣例的に、言語変化を起こさせる大きな要因となった社会変化があった時期を目安にして時代を区切ります。

英国諸島(= イギリス諸島)に来た言語

- 1) BC 7c～ (ケルト語)
- 2) BC 55/54～ (ラテン語)
- 3) 449年～ (アングロ・サクソン語 = 英語)
- 4) 8c～11c (古ノルド語 = スカンジナビア語)
- 5) 1066年～ (フランス語)
- 6) 14世紀～ (英語の復権)

英国諸島(= イギリス諸島)に来た民族と言語

- 1) BC 7c 大陸からケルト人が渡来 (ケルト語)
- 2) BC 55/54 ローマ軍が英国諸島征服 (ラテン語)
410年 ローマ帝国崩壊のためローマ軍引き上げ
- 3) 449年～ アングロ・サクソン人の英国諸島襲来
(アングロ・サクソン語 = 英語)
- 4) 8c～11c ヴァイキングの英国諸島襲来
(古ノルド語 = スカンジナビア語)
- 5) 1066年 Norman Conquest (フランス語)
(フランスに住むヴァイキングの子孫がイングランド征服)
- 6) 14世紀 英語の復権

イギリス人のルーツ

それは デンマーク

400年代

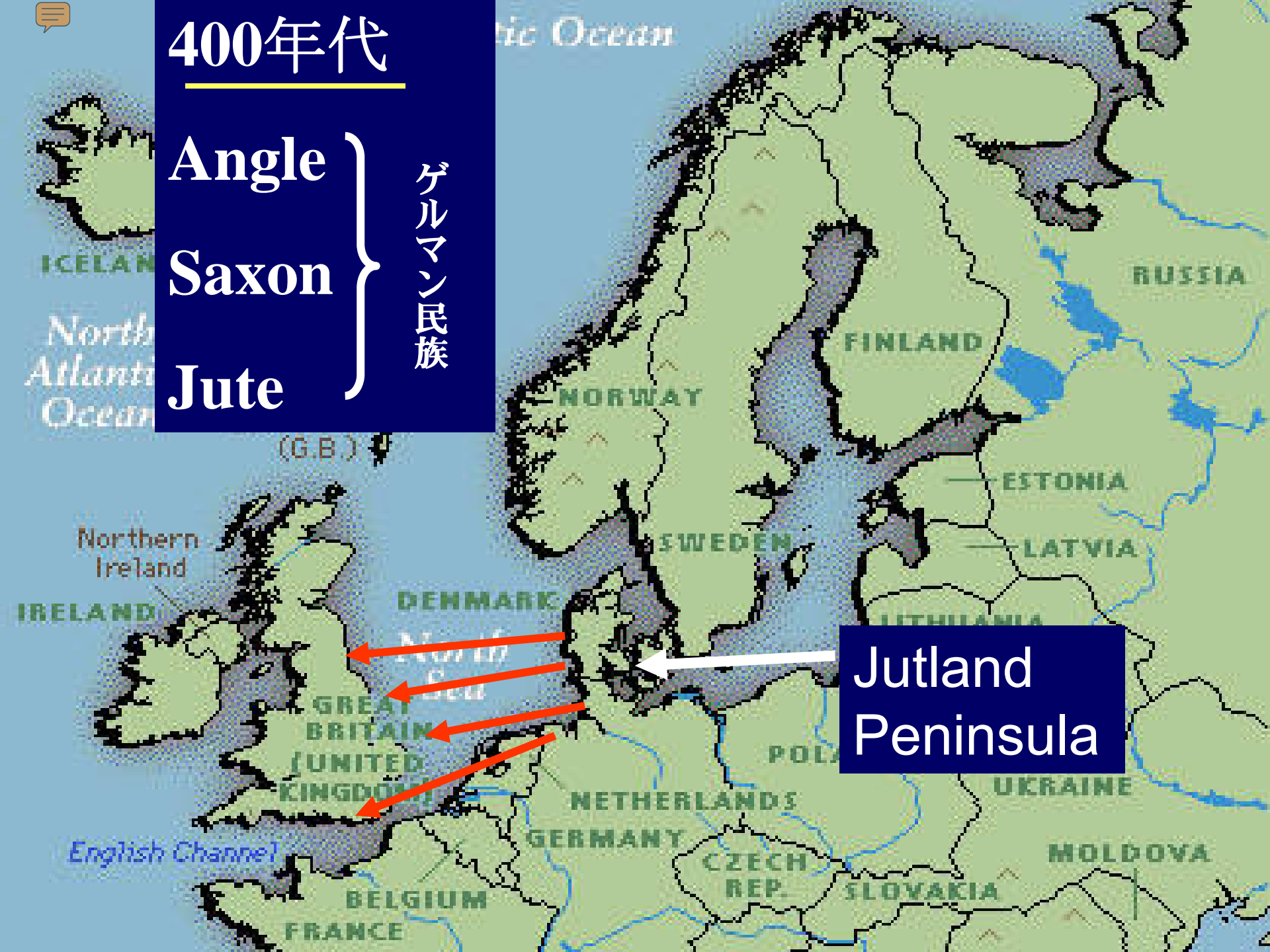
Angle

Saxon

Jute

ゲルマン民族

Jutland Peninsula



ユトランド半島から英国諸島にやって 来たゲルマン人の部族

- 1) Angle (アングル人)
- 2) Saxon (サクソン人)
- 3) Jute (ジュート人)

Englandの語源

Æangla land (アングル人の土地)

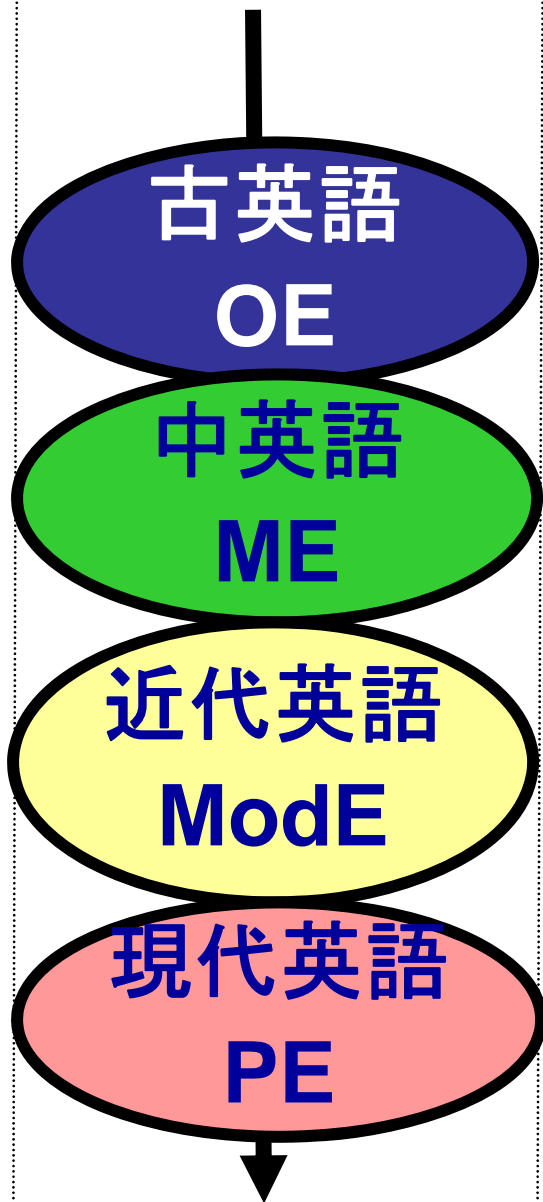


Engla land



England

各時代の名称



← アングロ・サクソン人がイングランドに襲来。イングランドに住んでいたケルト人を追い出す。 449-

← Norman Conquest 1066
公用語がフランス語になる。

← Caxtonが印刷機械を導入1476
綴り字が固定し始める。

← Samuel Johnsonが辞書を出版
1747-1755

未来の英語

Germanic
Language

OE

(古英語)

ME

(中英語)

ModE

(近代英語)

PE

(現代英語)

未来の英語

英語の時代区分と名称

← **Old English**

← **Middle English**

← **Modern English**

← **Present Day Eng.**

← **Current English**

Germanic Language

